

360°

フォトジャーナリスト

宇田 有三



自らシャベルを手にし、22年前に行方不明となった父親を捜すロサリーナ氏。チマルテナンゴ県コマラパにて

「お昼ご飯をどうぞ」
インディヘナ(先住民族)の女性たちは、発掘現場にいる全員に声をかけていた。

中米グアテマラの内戦は九六年十二月に終結。戦禍の跡は今、表面上感じること

遺骨の発掘

もちろん、発掘現場を取り囲むコンクリートの壁を造っている作業員たちにも

とほない。

しかし、内戦時、最も被害を受けた先住民族たちは、

私たちの遺骨発掘作業を不可能にする障壁になるはず。

簡単に過去を忘れるわけにはいかない。たとえば、「コ

壁の作業員たちは、生活の糧を得るため、軍部と繋

奪われたグアテマラ女性の「コナビグア」の創設

がりのある地主に雇われたに過ぎない。彼女たちはその事を十分に知っている。

殺され、秘密裡に埋められた肉親を探し求めている。

グアテマラの首都グアテ

マラシティから東北へ約八十時。チマルテナンゴ県の

コマラパの郊外にたどり着く。コマラパでの「秘密墓

圧力がかかったようだ。結局、コマラパでの遺骨

を、五百年以上前のスペイン植民地から始まった。ほ

す。

「コナビグア」(「連れ合いを

向から始まった。ここは

発掘は、千二百以上の穴を

掘り、百六十二の遺骨を掘り出した。しかし、ロサリーナ氏は、「コナビグア」は、観光客の目に触れることなく、再び歴史の中に葬られるのか。

骨を発見することはできなかった。

事実上米国の後ろ盾を得た軍によって犠牲者が増大したグアテマラ内戦。その結果を、加害者と被害者が同じ村に同居し続けるという状態の中、インディヘナたちは、自分たちの手で内戦の後始末をつけようとして

いる。観光産業は、グアテマラの大きな外貨収入源の一つ。観光客は、マヤの遺跡や鮮やかな民族衣装を身にまとったインディヘナたちを目当てにやって来る。だが、そこに住む、人間としての先住民族の負の歴史にまで思いを馳せることは少ない。虐殺の歴史は実のところ

す最後の機会でもあった。

の活動をすることが故に巻きこ

られるのか。